

ギャンブル依存からの脱出

ニッポン放送の「テレフォン人生相談」を聴いている。世の中でどんなことが起きているのかが分かって、頷くことがあったり驚くことがあったり、勉強になる。

9月のある日、20歳代前半の男性が「ギャンブル依存から抜け出したい」という相談をしてきた。パチンコ依存で、サラ金などに借金が重なり、親の支援を受けて返済した。ほとぼりがさめるとまたパチンコが始まり、再び深入りしてしまっている。何とか抜け出したいのだが、どうすれば良いかと言うのが相談の内容。カウンセラーの先生との間の会話内容を整理すると、こんな内容だった。

子どもの頃に親に買ってもらったゲーム機との出会いが始まりだった。様々なゲーム機を体験する中で、パチンコが一番気に入って夢中になって楽しんだ。やがて「本当のパチンコ屋へ行ってみよう」と思うようになったが、「18歳未満は入れない」ことがわかり断念。

18歳になるのを待っていたかのようにパチンコ屋通いが始まった。大学を出て就職もしたが、深入りする内に「プロのギャンブラーになりたい」と憧れを抱くようになってきた。

やがてサラ金から金を借りてまでパチンコ屋通いが続き、多額の返済を求められるようになった。

同居している親に相談して支援を受けて借金は返済できたが、パチンコ依存は止まない。

「このままで良いのだろうか?」と思い始めたのだが、やはりパチンコ屋へ行ってしまう。

「これからどうしたら良いだろう」と言うのが相談の主旨。

「親が子に与えるおもしろさ」がもたらす問題を浮き彫りにしている。

最近しばしば目にする「精巧な銃のおもちゃ」「サバイバルゲームと称する殺し合いのゲーム」などは、道徳や倫理観が醸成されるべき時期に体験させることは極めて危険である。

ゲーム機以外の物を知ることもなく、他の物に興味を持つこともなく少年時代を過ごした結果、自分の体験した世界の中から「自分の将来目標」が形成されていく。

また、最近話題になっている「スマホ」もしかりであり、SNS依存から殺人事件に巻き込まれることがあったり、数多くの事件の引金になっている。

大学を出て就職もした息子が両親のいる自宅に住んでいれば、家賃も要らず稼いだ金はただ使うだけで、生きていく上での緊張感など生まれもしない。

「金はなくなったら借りれば良い」という金銭感覚も恐ろしい。「困ったら親に泣きつければ良い」という考え方を学んで大人になった人は、これからどうなるのだろうか?

カウンセラーの先生のアドバイスは明快だった。

「プロのギャンブラーを目指したいという目標があるなら、そこに向かって突き進みなさい」

「男なんだから、自分が立てた目標に向かって必死になって成し遂げなさい」

「プロのギャンブラーになろうと言ったところで、親の庇護を受けているのではプロとは言えない。やるのなら人の力をあてにせず徹底してやりなさい」

「他人の力をあてにして命も賭けずにプロフェッショナルだなんて、笑わせるんじゃない。負けが続いたら飯も食えないし、親の金をあてにも出来ない。自分の生死を賭けてやるのがプロのギャンブラーだ」

とコメントした後、一呼吸置いて、こう結んだ。

「まず今すぐに家を出て一人暮らしをきなさい。親の家・親の金・親の庇護をあてにするのではなく、自分の力だけで生きていくことに専念きなさい。自分の日々の行動を、自分の命に関わるものとして体験きなさい。

今の貴方には、社会で生きていく為の常識も力も何も無い。それを身をもって感じる事が最優先課題です。

一人暮らしすることで、世の中を知り、友達を知り、彼女が出来たりして、社会の色々なことが理解できるようになって、それでもまだプロのギャンブラーになりたいのなら良い。

以上